



伝統は続く

1993～2002

くつろぎ：

動物園は動物たちにとってくつろぎのすみかである
そのため、私たちは来園者にも居心地の良いサービス
を提供していく

調和：

人と動物との共存の概念は動物園が進めようとする
ものである
私たちはその道がどのような道なのかを市民が見つ
け出すように導いている

古の中国人の言葉に、「過去の人々は木を育て、その後の人々が日陰を楽しむ」という諺があります。我々のすべてが祖先の継承者であり、また我々が継承者の祖先でもあります。いったん動物園の基礎が固まると、活動材料も十分に職員は準備万端となります。そして、自然保全や教育の事業が深められて行きます。年数を掛けながら情熱的に取り組んだ結果、くつろぎの空間のある、自然と調和したイメージが新しい台北市立動物園像として最終的に形作られました。

●我々の自然保全の大使であるコアラについては、専用ウェブサイトを立てて、野生動物のメッセージを伝え、人々の心を温めている。

●4羽のチャーミングなペンギンは「水を守るための親善大使」で、水や他の自然資源を大事にする思想、つまり人にとって最も簡単なことは自然とともに命を相互に保つことを人々に広めています。

●台湾産の動物はスター動物のように人気はありませんが、それらは私たちのプロジェクトにおいて保護事業の対象動物に入っています。台北県（現在は新北市）では、スイレン田のタイペアカガエル再生事業が今後の保護事業のモデルケースとして位置づけられています。台北市立動物園はまず地域農民の協力を得ながら野外調査を開始しました。その生息地再生はうまく行っており、カエル生息数が安定しながら回復しています。この事業に多くの人たちが係るように、農家等の人々と共に積極的に事業を進めています

